

第55回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和3年7月26日（月）午後2時から午後4時まで

2 場 所

愛知県三の丸庁舎8階 801会議室

3 出席者

委員 5人

説明のために出席した者 7人

4 傍聴者

0名

5 議 題

2020年度業務実績に関する評価について

6 議事概要

【2020年度業務実績に関する評価について】

- 評価案を取りまとめて、法人へ意見の有無等を照会し、次回の第56回評価委員会で決定することとした。

【質疑応答】

2020年度業務実績に関する評価について

○ 委員

議題「2020年度業務実績に関する評価」について審議に入りたいと思います。

本日は法人にも出席していただいておりますので、まず、法人に確認したい事項等ございましたらご発言いただけたらと思います。

資料1に基づきまして、評価が法人の自己評価・自己点検がⅣ（年度計画を上回って実施している）と評価されたものについて、一つずつ確認していきたいと思います。

まず項番8について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」と「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する」の2つの案を併記していますが何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

（質問なし）

それでは次の項番18について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」としてありますが何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

○ 委員

非常に分かりにくいところがあるので修正をお願いしたいのですが、「年度計画」の一つ目の「・」と二つ目の「・」がほとんど同じ意味になっています。一つ目の「・」は「複数学部にまたがる共同研究への助成を継承した共同研究」、二つ目は「ただの共同研究」と書かれています。

その結果、「計画の実施状況等」の一つ目の「・」の「年度計画を上回って実施している」の上から6行目、「外国語学部教員が～云々」というのと、二つ目の「・」の2行目の「外国語学部教員が～云々」というのが全く同じ文章になっています。

同じことを二回書いているので、できれば「年度計画」の共同研究を区別して書くことによって、「計画の実施状況等」の内容を重複しないように書いてください。

○ 法人

ご指摘のとおり、重複していて分かりにくい文章になっていると思いますので、分かりやすい形で整理をさせていただきたいと思います。

○ 委員

ありがとうございます。そうしますと「計画の実施状況等」も今ご指摘いただきましたようにほぼ一つ目の「・」と二つ目の「・」の内容がかぶっておりますので、年度計画の整理とともに、「計画の実施状況等」につきましても整理していただくとありがたいと思います。

○ 法人

そのようにさせていただきます。

○ 委員

続きまして項番24について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」としてありますが何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

(質問なし)

それでは、私から質問させていただきたいのですが、「認知症高齢者への取り組みが認められ」と評価案にございますが、法人から提出された資料では、特に「認められた」というような内容は無かったのですが、仕組みが認められたことを示すような何か根拠はございますか。

○ 法人

認知症高齢者への取り組みについては県と昨年度いろいろ協議をしておりました。モデル的な事業を県で実施するということで、参加をさせていただきました。その結果、協力してやっていくということで協定を締結させていただいたということでございますので、それで「認められた」というような表現としております。

○ 委員

実績が評価されたということよりも、パートナーとして認知されたということですか。

○ 法人
そうです。

○ 委員

続きまして項番34について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」としてありますが何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

(質問なし)

続きまして項番39について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」としてありますが何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

(質問なし)

それでは、私から質問させていただきます。まず、意見ですけれども、年度計画の一つ目の「・」が「教員による展覧会・演奏会などの芸術活動を積極的に推進する」というもので、とてもジェネラルで、一般的過ぎるのかなという印象を持ちました。本来は中期計画で達成すべき計画があって、その中で今年度はこれ、今年度はこれ、と達成への道筋が見えてくるべきものと思います。単に「積極的に推進する」というのは当たり前といいますか、今年度はこれをやりますという計画ではないような印象を持ちました。

非常にジェネラルなものについて、「年度計画を上回って実施している」という自己評価であったわけですが、どのような観点で「年度計画を上回っている」と評価されたのでしょうか。評価案のところで「消極的になることなく、常に積極的な芸術活動を行った」とあるのですが、このコロナ禍でコンサートができなかったり展覧会ができなかった中で、あえてVR公開をしたりCD制作をしたというところ、「コロナ禍でありながら」というところが積極的に推進するということなのでしょうか。

どのあたりが「積極的に推進する」に相当し、「上回って実施した」と評価されているのかご説明いただければと思います。

○ 法人

おっしゃる通り、「年度計画」が非常に一般的な書き方で、「積極的」というのを上回るか上回らないかの判断は難しかったと思いますが、芸大については、

感染症対策をしっかりと行い、一般的には展覧会・演奏会ができない中で、工夫をしながら開催できたということに加え、教員展をVR公開やCD制作をするなど、本来の状況ではやらなかったことを行ったということで、自己評価としては計画以上の成果を出したとしております。

○ 委員

続きまして項番45について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」と「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する」の2つの案を併記していますが何かご意見、ご質問、確認事項等がございますでしょうか。

(質問なし)

それでは、評価案について取りまとめていきたいと思っております。法人の皆様はご退席をお願いします。

(法人退席)

最初に戻りまして、評価案を一件一件確定させていきたいと思っております。項番8につきまして、評価案の確認事項ですが、このままでよろしいでしょうか。また、案の1では法人の自己点検を尊重し、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」としており、案の2では「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する」としてまいります。ご意見をいただきましたら幸いです。

○ 委員

前回質問しましたが、これに対して県立大学が2年間かけてじっくりと議論して研究所体制を変えたということをお答えされ、私はその熱意を汲んで、「年度計画を上回って実施している」としてよいと思っております。

○ 委員

私も委員と同じで、大変ご熱心にご回答いただきまして、ただ、成果が出てくるのはこれからであろうというところをどう評価されるか、委員の方のお考えを聞いてから判断したいと思っておりましたのですが、委員が今おっしゃられた通り、研究所新体制に向けての熱意はすごくあったのだなと。とりあえず新体制がスタートできたというのは、画期的であり素晴らしいのではないかなと思

ました。成果や会計は次年度以降検討することであり、ここに行きつくまでの努力は大変であったと感じました。

○ 委員

両委員とも、努力は特筆に値するのではないかというご意見だったのではないかと思います。いかがでしょうか。

○ 委員

特にございません。お二人の委員のおっしゃられたことに賛成します。

○ 委員

いかがでしょうか。

○ 委員

中期計画というものの捉え方でございますけれども、中期計画のスパンはいつまでですか。

○ 委員

中期計画は6年です。今回は2年目です。前年度の2020年度を評価していますので、2020年度が2年目になります。

私の意見を申し上げますと、私も「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」でよいと思います。理由は委員がおっしゃったとおり、非常に力を入れてやってこられたということと、大学にいるとよく分かるのですが、組織の改編をするのは非常に大変で、特に縦割りになっていた各部局に張り付いていた研究所を再編し、研究推進局を新設して、横断的な組織を作ったことは、非常に画期的であると思います。

ただ、確認事項の書きぶりについては、二つ目のパラグラフで「センター組織体制の見直しを行い～専門部会を新設した」とあるのですが、中の資料を拝見しますと、「「国際交流室」を留学支援に特化した「留学支援室」に改称した」とありますので、「新設した」というのは100%正しくないように思います。例えば、「専門部会に再編し、機能強化を図った」というように、書きぶりを変えていただくといいのではと思います。

次のパラグラフですけれども、「年度計画」が「～授業実施体制を検討、確定する」と「～体制・規程等の見直しを行う」というものですので、「～開かれた研究を行う」というのは説明としてはそぐわないという印象を持ちました。そもそも研究に「開かれた」というのはあまり使わない形容詞と思ったのです

が、行政ではよく使われるのですが、「～大きく異なる機能強化を図っている」等、「年度計画」に対応した書きぶりにしていただいたほうが良いと思います。

研究を行ったことを評価するのではなく、あくまで組織の体制を作ったということ、見直しをしたということの評価する項番ですので、よろしく願いいたします。

それでは、評価案につきましては、案の1、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

続きまして、項番18についてですが、評価案「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」について、ご意見等ございましたでしょうか。

(異議なし)

評価結果は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」でいいと思うのですが、先ほど法人に対して委員から「年度計画」の一つ目の「・」と二つ目の「・」が重複しているというご意見がありました。それにつきまして、おそらく次回までに「年度計画」の欄と「計画の実施状況」欄について修正が行われると期待しています。

それを踏まえて、ここも確認事項の書きぶりに若干問題があると思っております。ここは「公募する」というのが年度計画ですので、「公募を行った」ことを評価すべきなのですが、「確認事項」欄の三つ目のパラグラフでは、「～研究に着手した」となっています。きちんと対応していません。「～調査した」ですとか「～研究した」ですとか「～研究に着手した」ということではなく、あくまでも指標に従って、今回「産学公いずれかの連携にかかわる研究を行うもの」というカテゴリーを設け、公募を開始し、それによってこういう研究、こういう研究、こういう研究を採択し、研究を支援したというような書きぶりに変更していただくとよろしいと思います。

冒頭に書かれていますけれども、「専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う」というのが私共評価委員会のミッションと思っておりますので、そういう意味では「研究した」ということ自体を評価するのではなく、大学としてこういった制度を作り公募を行ったと、その結果、地域社会に非常にニーズの高い研究を採択した、ですとか、あるい

は分野横断型の研究を支援したという事実が大事かと思しますので、この修正もお願いできたらと思います。

続きまして、項番24についてですが、評価案「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」について、ご意見等ございましたでしょうか。

(異議なし)

ここも、確認事項は、「年度計画」を上回って実施しているということの説明になりますので、書きぶりとしては、「5学部で構成される本学の強みを生かした県民ニーズの高いテーマによる「学術講演会」や「公開講座」が開催された」という事実と、それが高い満足度を得たとか、地域に貢献しているですとかいうことを、評価の確認事項として加えていただくとよろしいかと思えます。

二段落目の「～認知症高齢者への取り組みが認められ～」というところですが、何か賞を取ったとか、そういう形で認められたというよりは、愛知県との間でパートナーとして認知されたということですので、書きぶりとしては正確でない印象を受けました。ここも「認知症高齢者への取り組みを実施するため」ですとか、「計画の実施状況等」の書きぶりと同じように合わせて書いていただくとよろしいかと思えますが、よろしいでしょうか。

○ 委員

委員のご意見を聞いてなるほどと思ったのですが、「確認」欄の二段落目は、「年度計画」のどこに対応するのでしょうか。「確認事項」と「年度計画」がリンクしていないように思うのですが、どういうふうに繋げるのか。三段落目の日進市の件についても、どう「年度計画」と繋がって認識するのでしょうか。

○ 事務局

認知症高齢者の件につきましては、「計画の実施状況等」欄の三つ目の「・」に「愛知県との連携と協力に関する提携を締結した」というのを引っ張ってきたものでございます。日進市の関係につきましては、実際行われていることは確かですが、「年度計画」にどう繋がるかというところ難しいところです。

○ 委員

どちらかといえば「年度計画」の二つ目の「・」、「教員・学生による地域貢献活動を実施し～」になりますか。

○ 事務局

「年度計画」は「中期計画」に比べて個別具体的なものを設定させていただいておりますが、昨年度の年度途中から、認知症の協定を愛知県の福祉局と結ぶにあたり、県大の取り組みとして非常に良いものですので、どこの項番に入れていくか、それが「中期計画」に言う「地域課題の解決」にはまったものですから、大学の思いとしましては年度計画は例えば「学術講演会を行う」「情報発信をする」等よりも大きな「協定を結ぶ」というところに発展させたということが言いたかったのだろうと予想されます。

○ 委員

そう言われると納得できるものがあります。となると「中期計画」の中の文言を少し引用して、一言入れていただくとわかりやすいかと思います。今のご説明を生かした確認事項にしてください。

○ 委員

私もそう思います。「中期計画」の中に書かれている「～教職員及び学生と自治体・地域の諸団体や県民との協同による地域の課題解決～」に該当するのが分かりやすいように、「年度計画」は「学術講演会」や「公開講座」だったけれども、それを上回って締結したことが「年度計画を上回って実施している」ことの根拠になると分かるような書きぶりにしていただきたいと思います。

続きまして、項番34についてですが、評価案「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」について、ご意見等ございますでしょうか。

(異議なし)

「年度計画」の一つ目の「・」は「～優先順位をつけて対応を検討する」というものでした。「計画の実施状況等」では、「～優先順位の考え方を確認した」と。優先順位をつけてやっていますというのを確認して周知したということだと思います。「確認事項」についても「～優先順位の考え方を確認した」となっております。「年度計画」との対応で言いますと、「対応を検討する」という箇所に対応する説明が必要かと思いますが、大学の優先順位というのはどういうものなのでしょうか。

○ 事務局

優先順位と申しますと、長寿命化計画でございますので、耐用年数を一つずつ確認するということですね。30年より40年、40年より50年の物を優先して行うということ。その上で耐震性を優先的に行う、その後、機能性、果たして50年前に建った施設が今の授業内容、研究内容に合致したスペースがあるのかないのか、使い勝手はどうか、ということの一つずつ確認をしているということです。実際には今年度基本調査の後の基本設計をやっております。「年度計画」にある「検討」というものが、どこまでの成果を言うのかというのは、非常に議論したと思います。まずは、基本設計までやって、ものとしてちゃんと優先順位をつけるのが「検討」なのか、それよりも前の段階の、基本設計の元となる資料を作るのが「検討」でよいのかというのが、一つ議論になることろでありまして、芸大としましては、その前の段階のところでも、年に何十回も会議をやっていきますので、「検討」に値するのではないかということで、「確認した」とは書いてあるのですが、ある程度の方角性を示したという書きぶりになっております。

○ 委員

「計画の実施状況」欄の、「学長補佐会議」や「教育研究審議会」という場所でこういう現状の課題を確認した、というのは従前もやっていたのですか。今回新たにこういうところでやって方向性を考えられたのか、どちらでしょうか。

○ 事務局

「今回新たに」と考えてよいと思います。もともと長寿命化計画は関東でトンネルが落下した事故を受けまして、全国の自治体で作ることが決定されたものでして、それを踏まえて各施設ごとの長寿命化計画を作るという話の中で新たにこの教育審議会ですとか、それまでもいわゆる小修繕ですとか雨漏り程度の話はあったんですが、わざわざ長寿命化計画のためにこういった会議を行うというのは、新たにやったということです。

○ 委員

それを書いていただけるとよいと思います。

○ 委員

長寿命化計画を検討したことは、これだと「年度計画」そのままだと思います。それよりもなぜ上回ったかということ、その下に書いてある「新型コロナウイルス

ウイルス感染症対策としてスモークマシンを用いて換気の調査をして、装置の設備を行って対面授業を実施した」、こちらを頑張ったのだと思うので、このあたりの書き方をはっきりさせていただいたほうが私はよいと思います。

○ 委員

ありがとうございます。それではこの書きぶりについても改めていただけますでしょうか。

○ 委員

委員のご意見でその通りだなと思ったのですが、県庁でご説明を受けたときにスモークマシンについてすごく説明をされていた記憶があります。確かに「上回る」というのはこの部分なのかもしれない。ちょっと私は言葉にこだわったので、「会議」「審議会」で新たにそういうものを行ったということを取りあげていましたけれども、「スモークマシン」が確かにすごく印象に残っていた記憶があるので、そのあたり両方書いていただくと「上回った」ということがよく分かると思います。

○ 委員

ご指摘ありがとうございます。私も同感ですので、二点、初めて「学長補佐会議」および「教育研究審議会」等で優先付けを行ったということと、それからスモークマシンを用いていち早く、6月に対面授業を再開したという二点を強調し、だからこそ「上回って実施した」と評価する、ということが分かるような書きぶりをお願いします。

続きまして項番39、評価案「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」について、先ほど私がどのような点で上回っているかを質問させていただいたのですが、他にご意見ございますでしょうか。

ここも、そういう意味ではもともとが「積極的に推進する」であったけれども、コロナ禍でありながらこんな新しい試みをいろいろと行った、ということをもう少し強調するような書き方にしていただけるとありがたいと思います。

ほかによろしいでしょうか

(意見なし)

それでは、続きまして項番49、案の1では法人の自己点検を尊重し、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する」としており、案の2では「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当

であると判断する」としています。ご意見等ございますでしょうか。

○ 委員

私が確か意見を言ったと思いますけれども、ブランディングのための指針を作成して具体的にこういう効果が出たから「上回って実施」というのなら分かるのですが、指針を作成したことをもって「上回って実施」というのはいかがなものかと思います。

○ 委員

確かにブランディングのための指針2020は作成されたけれども、まだその効果もわからないということもあり、案の2、「十分に実施」が妥当であると判断するご意見です。いかがでしょうか。

これも、法人がいらっしゃる間にお聞きすればよかったですのですが、「確認事項」の最初のパラグラフの最後のところに、「英語版を含む大学Webサイトのリニューアルに向けた具体的な内容を検討した」とあるのですが、サイトのリニューアルは実現されていますか。

○ 事務局

実際に公開するには至っていないと思います。

○ 委員

年度計画が「検討する」で、実施状況が「検討した」なので、「上回っている」と判断するのは少し難しいのではと思います。

○ 委員

これに関しては、項番8のように何年もかけてやったというものではないので、委員に賛同します。

○ 委員

私も、「継続的に検討する」とか「内容を検討した」ということがつづられているので、「ブランディングのための指針2020」を作成した段階であると認識しましたので、これから上回っていくような印象を受けました。ですので委員に賛同します。

○ 委員

今後に期待ということだと思いますけれども、私も「上回って実施してい

る」とは言えないのではないかと思います。来年度に期待するというので、今年度は案の2、「十分に実施している」としてよろしいでしょうか。いかがですか。

○ 委員

もともとの「年度計画」が「検討する」ですので、評価が難しい面があると思います。「中期計画」の指標の「第三期中期計画最終年度に150万件以上のアクセス数」を、最終年度にと書かれているにもかかわらず、1年目で達成したということがおそらく法人が高く自己評価された理由であろうかと思えます。ただ、良くも悪くもコロナ対応という特別なことに対応せざるを得なかった、その一方でこの点で注目を集めたということであるので、大幅に上回ったというよりも「十分に実施している」としても厳しい評価ではないのかなと思います。

○ 委員

確かに指標に照らして言えば、最終年度に150万件以上とするということで、これを達成したということで「上回って実施している」と判断されたようにも思いますが、今、委員がおっしゃられた通りコロナ禍ということもあり、今回は「十分に実施している」という評価にさせていただきたいと思えます。

○ 委員

今150万件を達成したことをここで「上回った」と認めると、来年もし150万件を下回った場合、「下回った」という評価になるため、今は評価しないほうが良いと思います。

○ 委員

前回の委員会で、アクセス数が高まった理由の一つがスモークマシンの動画が出ていて、実際に煙がどのように広がっていくかに興味を持ったということだというご説明もございましたので、今回は案の2を採用するというのでよろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、全体評価につきまして、ご意見等ございますでしょうか。

私自身は先程も申しましたように、2行目の「開かれた研究を行う体制を整えたこと」という表現に違和感がございますので、「学部横断型・分野横断型の研究を行う体制を整えたこと」とか「研究力強化を図る体制を整えたこと」

といった文言に修正いただいたほうがよいように思います。

最後の行につきまして、今回は最終年度ではないので「第二期中期目標期間と同様に中期目標の達成に向け」というまとめのような文よりは、今年度、中期計画2年目においてどうであったかということを具体的に意見できたらと思うのですが。

○ 委員

私もその部分は「中期目標」という言葉が続くのがくどいなと思っていましたので、委員のご意見に賛同します。

○ 委員

2年目においてこういうふう頑張ったということを表記したいのだと思うのですが、第二期中期目標期間を持ち出すよりは、もっと別なことを記載するとよいのではないかと思うのですが。

○ 事務局

今回芸術大学の情報発信等においても、コロナ禍においてもいろいろ積極的な活動をしてきたということもありますし、「コロナ禍」と書けば、年度がいつであったかということも評価の中でわかりやすくなると思いますので、法人とも調整いたしますが、「新型コロナ禍の状況下においても」のような文言を書くべきなのかということをお委員の皆様方にご検討いただきたいと思えます。

○ 委員

「コロナ禍」といいますと正しい表現ではないようで、NHKなどもできるだけ使わないようにしてしまっていて、「新型コロナウイルス感染症の拡大にもかかわらず」というような表現に少し言葉を加えていただき、取り組みの中身が分かるような形で「～取り組みを積み上げており」のところにつなげていただきたいと思えます。

○ 委員

どこかでCOVID-19という言葉があったかと思うのですが。この表現が正確なのでしょうか。

○ 事務局

文部科学省に正式な表現があると思いますので、調べて記載させていただ

きます。

○ 委員

それでは、他にご意見・ご質問が無いようでしたら、確認等が必要な事項につきましては、事務局から個別に委員の先生方に意見を伺うこととして、最終案の取りまとめについては、私と事務局に一任していただくこととしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、本日いただきましたご意見をもとに、評価結果案を取りまとめた後、法人へ意見の照会をいたします。

○ 委員

確認事項の書き方なのですが、「計画の実施状況等」は大学側が書かれると思うのですが、それを「年度計画」に沿った書き方にしてほしいと事務局から大学側に依頼していただきたい。それをきちんとしておけば、「確認事項」のところを書き直すことにはならないと思います。大学側のほうにきちんと申し伝えていただけますか。事務局もやりやすいと思いますので。

○ 委員

私もそう思います。「年度計画」の策定の過程に我々評価委員会がかかわるわけではないので、「年度計画」として確定されたものを見て評価活動をおこなうこととなりますが、先ほども申し上げました通り、項番39の年度計画「教員による展覧会・演奏会などの芸術活動を積極的に推進する」という極めて一般的なもので、これが計画なのかと正直思うところもあります。「今年これを成し遂げたい」という具体的な計画であるべきで、「積極的に推進する」というのは当然のことなので、あえて計画にするものではないような印象を受けます。

年度計画は中期計画に定めたものの具体化として、達成可能であるということが検証可能なように計画を立てていただきたかったと思います。前回の委員会の冒頭でご紹介させていただいたのですが、国立大学の中期目標・中期計画は、「第三者により検証可能なものである」というのが明言されていて、一般的な計画は評価が難しいのではないかという印象を持ちます。

○ 委員

項番39につきまして、芸術学部のさまざまな取り組みがあったのは素晴らしいと思うのですが、それまでの年度から継続された企画と、その年の新しい企画を分けて記載していただくと評価の際にやりやすいと思います。例えば「それまでの年にも取り組んでいて、今年はCOVID-19にも関わらず完成に到達した」ということであれば分かりやすい。あるいは逆に「COVID-19であるにもかかわらず新たに着手した」と。そこを分けて書いていただけたらと存じます。

○ 委員

今3点、委員がご提案させていただきましたが、ぜひ、次年度の年度計画の策定の際、実施状況の記述において反映していただけるとありがたいと思いますので、法人にお伝えいただければと思います。

それでは、本日いただきましたご意見をもとに、評価結果案を取りまとめた後、法人へ意見の照会をいたします。

次回8月18日に開催される第56回評価委員会では、法人から提出された意見を踏まえ、業務実績評価を決定する予定です。

本日予定しておりました議題は全て終了いたしました。他にご意見等が無いようでしたら、終了したいと思いますがいよろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、第55回愛知県公立大学法人評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

以上

会議録署名人

会議録署名人